

平成 22 年度通常総会・理事会 開催報告

日 時：平成 22 年 6 月 17 日（木）
15：00～16：00 総会・理事会議案審議
16：00～17：00 意見交流会
場 所：如水会館 松風の間



開会の挨拶：樋口会長

当協議会が今後中国への新たな取り組みを進めて行くに当たって、国土交通省と経済産業省よりご支援を頂くようなご提案をいただいています。政府の成長戦略にもアジア戦略が謳われており、ますますグローバル化が進んでいく中で、官民一体となった展開が出来ることは大変心強いことです。会員の皆様にとって役に立つ、なくてはならない日中建築住宅産業協議会としての活動を進めていきたいと思ひます。

第一号議案 平成 21 年度事業報告承認の件

第二号議案 平成 21 年度収支決算承認の件

- 1) 先ず、平成 21 年度の会員数の推移と各委員会・部会の事業報告が行われた。引き続き、平成 21 年度の収支決算が報告された。
- 2) 第一号議案、第二号議案ともに理事会と総会に諮られ、承認を得た。



第三号議案 新規加入会員承認の件

- 1) 平成 21 年度の入退会企業の報告がなされた。
昨年 11 月の臨時総会・理事会後の入会企業は 6 社（正会員 4 社、賛助会員 2 社）
- 2) 平成 22 年度の入会企業の入会企業は 8 社（正会員 7 社、賛助会員 1 社）
- 3) 本議案は理事会に諮られ、14 社の入会が承認された。

第四号議案 平成 22 年度事業計画（案）承認の件

第五号議案 平成 22 年度予算 (案) 承認の件 *総会は、第三号議案、第四号議案

- 1) 平成 22 年度事業計画の報告の前に、委員会組織の変更案の報告がなされた。
- 2) 平成 22 年度の各委員会・部会の事業計画が報告された。また、事業計画に引き続き、平成 22 年度予算が報告された。
- 3) 事業計画案と予算案ともに、理事会と総会に諮られ、承認を得た。

理事会・総会の第 2 部として、樋口会長の司会により、理事の皆様と会員の皆様の意見交流を行った。以下、ご意見をいただきました内容の抜粋。

樋口会長

皆様には忌憚のない意見を言っていただきたいと思います。当協議会に対する要望や国土交通省や経済産業省に対してのお願い等々について。また、中国で事業展開をしてきて皆様の参考になるだろうという事があれば、それを発表していただければ有り難いと思います。

木瀬副会長

上海万博のジャパンデーに行ってきたばかりです。中国館では、中国における最新の暮らしの様子が展示されていました。地方の方々が万博であこがれの生活を体感することで、中国全土へ新しい生活文化が広がっていくことを確信できました。いま、新しい生活文化をきちんと提案するという事は非常に重要な意味を持ちます。日中建協が新たな取り組みを進めることは、時期としても非常によいタイミングだと思えます。

吉田副会長

中国では、いろんな展示会に出展しているのですが、ヨーロッパやアメリカなどは、会社の幹部がずらっと来ていて売り込みに大変な勢いです。どうやってスタンダードを作るか、規格を作っていくかという事で、一企業がどこまで出来るかということよりも、官民が一緒になって対応していくには、日中建協は非情に有力な組織になると思えます。

岡本副会長

中国で建築の設計をしていますが、最近では低炭素都市に対する関心が大変高まっていて、日本の高い技術をどうやってチームジャパンとして中国で展開していくかが重要で、日中建協という大変いい組織が出来てきたと感じています。これからは、都市の低炭素化が中国のビジネスのキーワードになると感じています。

高橋社長 (ニホンフラッシュ株式会社)

私の会社は、内装ドア、化粧造作材、収納ユニットを中国でやっています。今、現実に困っている問題がある。政府の住宅政策です。ちょっとバブルが来ているからという事で、ローンの頭金を 10%から 50%にすると売れ行きが減るわけです。上海で固定資産税をとろうかと新聞に出ただけで売り上げが止まります。売れが止まると受注していてもゆっくりしてくれというわけで止める場合もあります。そういう政策によって振り回されています。

ただ、中国事業は物件数がとても大きい。去年 12 億㎡のマンションが建ったといえます。一戸が 120 ㎡と換算して、1,000 万戸あるわけです。

総会・理事会の報告決議事項と意見交流会の内容は、会報誌「日中建築住宅情報」№186 6・7 月号に詳しく記載しています。